

平成29年度大正小学校 学校経営方針

平成29年4月3日 校長 井出賀津雄

I 学校教育目標

「自ら考え、正しく判断し、心身ともに健康で、実践力のある児童の育成」

- 何事にも進んで取り組む、やる気のある子ども……やる気
- 最後までやりぬく、ねばり強い子ども……根気
- 丈夫な体と強い意志をもつ子ども……体力・気力
- 情操豊かで、思いやりのある子ども……思いやり

※やる気について⇒

- 自尊感情・自己効力感・自己肯定感がもてる指導
- プラス思考・ポジティブになる指導
- 積極性・チャレンジ精神を伸ばす指導

※根気について⇒

- 失望や不安を取り除き、達成感を味わわせ自信をもたせる指導
- 夢中になって学べる・遊べる環境整備。
- 基本的な生活習慣を身につける指導、環境整備。

※体力・気力について

- 体力・気力を向上させる教育活動の充実、環境整備。
- 健康増進に関わる指導の充実、環境整備。

※思いやりについて⇒

- 社会生活に必要な常識や良識の育成。
- 望ましい「生き方」の基礎・基本の育成。
- 全教育活動を通じた道徳教育の充実。
- 豊かな体験活動を通して内面に根ざした道徳性の育成。
- 教師と児童、児童相互の望ましい人間関係づくり。
- 支え合い励まし合う心の確立。
- 基本的な生活習慣を定着。

II 学校経営の基本方針（学校の目指す姿）

1. 児童が楽しく学べる、安全で整った学校でありたい。

- 児童自身が成長を実感し向上できる学習の充実（授業改善・児童理解・学習のきまり）。
- 自分の身を守る意識向上を図る。安全な環境づくり（気づき・整理整頓）。
- 地域に焦点をあてた大正らしい学習（絆を育む、じゃがまる農園活動）。

2. 保護者が通わせたい、行きたくなる（頼もしい先生がいる、授業や説明がわかりやすい、魅力があり思わず足を運びたい）学校でありたい。

- 地域に学ぶ教育活動の一層の定着を図る（記憶を作る、地域の先生）。
- 保護者・地域への説明責任を果たすと共に、情報交換を密にすることで、開かれた学校改善に努める（双方向、相互補完、本音、信頼関係）。
- 地域と協働する活動を充実させる（地域行事、学社連携、ボランティア）。
- 一人ひとりのよさ（個性や能力の伸長、自尊感情・自己肯定感・自己有用感の高揚等）を見つけ育む。

3. 先生が教育実践が楽しく、誇りをもって仕事のできる「やりがいのある学校」でありたい。

- 個々の力を結集しチーム力で勝負する職員室（協働・助け合い・報・連・相）
- 責任ある経営参画（主体性・提案）
- 成果が見える研修活動の創造（実効性・全員参加・公開）
- 同じ物差しでいつでも誰でもぶれない指導（学習のきまり、生活のきまり）

4. 学校は教育機関としての立場を自覚し、公教育に携わるにふさわしい組織でありたい。

- 公教育への期待を正面で受け止める（いじめ・学力向上・体罰）。
- 公務員として社会人としての信頼感を高める（信用失墜・服務規律、誇り）。
- 子どものために連携を積極的に求める（地域・関係機関⇒エリアファミリー）。

III 本年度の経営の重点

一人ひとりが成長を実感し向上する、らしさが際立つ学校を創る。

- ◎学びの楽しさ・良さに気づく児童の育成
(学力・学習意欲向上 授業改善 校内研修の充実)
- ◎みんなとも、自分とも仲良くできる児童の育成
(自尊感情・自己肯定感・自己有用感の醸成 違いに寛容な態度、子どもの一体感を作る)
- ◎汗をかく児童の育成
(体力・運動意欲の向上 自分の心と体への関心を高める 安全教育の推進)

1 重点目標を達成するための具体的方策

(1) 魅力ある学校づくり

◆ 児童・保護者・地域にとって安心感・信頼感のある学校づくりに努める。

- ア 地域の自然や伝統文化、芸術活動を生かした教育活動の推進に努める。
- イ 地域・家庭・学校のネットワークづくりの推進に努める。
- ウ 学校力の向上を図る学校づくりの推進に努める。
- エ 学校や地域の素材を教材化し、地域の特色を生かした教育活動の推進に努める。
- オ 自尊感情・自己肯定感・自己有用感を高める指導の充実に努める。

◆ 全職員協働による滑らかな学校運営の推進に努める。

- ア 経営の重点を踏まえ、学級経営・校務分掌業務の充実に努める。
- イ 協働・協業によるチーム大正小学校になるように努める。
- ウ 目指す方向を確立し、目標実現に向けた方策を共有するよう努める。
- エ 日々の授業や校務を振り返り、その改善に努める。
- オ 児童の実態・変容の分析、職務の進行の把握など、検証・点検に努める。

(2) 教育課程

◆ 学習指導要領の趣旨を踏まえ、教育課程の編成・実施を図る。

- ア 児童の個性を生かし自ら学ぶ力を育てるバランスのとれた教育課程の編成・実施・評価・改善を図る。
- イ 単位時間の目標・まとめを確実にとらえさせ、一人ひとりに応じた学力の向上に努める。
- ウ 各教科・各領域ごとの関連や目標及び位置づけを明確にした管理と運営に努める。
- エ 新学習指導要領の移行期間及び実施に向けた取組（研修・準備・実践等）を行う。

(3) 学習指導

◆ 個に応じた指導の充実に図り、確かな学力の育成に努める。

- ア ノート指導・朝学習など児童の学習支援に意を注ぐ。家庭学習の質と量の改善に努める。
- イ 子どもの変容が子ども自身にも見える教育評価の推進に努める。
- ウ 地域の人材・風土・産業を生かした教育課程の実施・評価・改善・編成に努める。
- エ 一人ひとりの良さを生かす指導過程・方法、指導体制の工夫に努める。（場所・機会等の設定）

(4) 道徳教育

◆ 特別の教科「道徳」の実践の蓄積と教育活動全体での道徳教育の充実に努める。

- ア 道徳教育及び人権教育を充実させ、子どもたちの「自信と勇気・寛容の態度」の育成に努める。
- イ 道徳の研修及び道徳の時間の授業の公開・充実に努める。（日常生活・体験をもとに学ぶもの、道徳の授業の指導過程・板書、「私たちの道徳」の有効活用等）
- ウ いじめを見逃さない指導体制を充実させる。いけないことは許さず、個々の些細な言動や心の変化を見逃さず、スピードとタイミング感のある対応を行う。また、家庭との連携を密にする。
- エ 農園活動と食育の関連を生かし、環境教育と連動して、環境に優しい実践的態度の育成に努める。

(5) 特別活動

◆ 集団活動を通して、個性や能力を伸ばし、自主的・実践的な態度の育成に努める。

- ア 大正小学校の所属感を高める児童会活動の推進に努める。
- イ ひと味違う、自分たちらしさを感じる学校行事づくりの工夫に努める。
- ウ 学級活動の工夫と望ましい人間関係の醸成に努める。

(6) 生徒指導

◆ 児童理解に努めるとともに、児童相互、児童と教師の深い信頼関係を築くよう努める。

- ア 家庭と連携した指導の工夫に努める。
- イ カウンセリングマインドに基づいた指導の充実に努める。
- ウ 規範意識の向上とその内面化を図る指導の工夫に努める。

(7) 健康・安全指導

◆ 自分と仲間を守る健康安全教育の推進に努める。

- ア 体育の授業を中心に児童の運動機会の確保・内容の充実と工夫に努める。
- イ 実践的な各種訓練を工夫し危機回避能力を高めると共に地域と連携した安全確保の取組の継続に努める。
- ウ 望ましい保健・衛生習慣の形成と実践的な態度(「早寝」「早起き」「朝ご飯」)を育てる取組の継続に努める。
- エ 子どもの心や保護者の思い・悩みを受け止める教育相談活動を全職員で充実させるよう努める。

(8) キャリア教育

◆ 地域や社会から学ぶ、キャリア教育の充実に努める。

- ア 個々の良さや可能性を伸張させる指導場面と指導内容を意識したキャリア教育の推進に努める。
- イ 社会人に学ぶ職業に関わる授業機会をつくる。
- ウ 正しい職業観・勤労観をはぐくむ生き方指導の充実に努める。
- エ 自己肯定感・自尊感情を高める効果的な指導の充実に努める。

(9) 学級経営

◆ 学校教育目標や経営方針を具体化し、経営の充実に努める。

- ア 学校教育目標、経営方針・学級目標の具現化を図る意図的な学年・学級経営に努める。
- イ 児童と先生が共に高め合い、共に創り整える教室を創造するよう努める。
- ウ 子ども同士・教師と子どものふれあいを通じ、児童が安心して活動できる人間関係作りに努める。

(10) 校内研修

◆ 今後を見据え実践を意味づける、研修・研究活動の充実に努める。

- ア 研修の方向を視野に入れた研修の充実に努める。
- イ 内外の先進校・実践を通じて職員相互が磨きあう開かれた研修風土の醸成に努める。
- ウ 職員相互のスキルアップを図る研修、時機に応じたタイムリーな研修機会の確保に努める。

(11) 特別支援教育

◆ 職員全ての連携のもと特別支援学級と学級での厚い支援教育の推進に努める。

- ア 支援学級間・支援学級と普通学級との連携をはかり、職員全てが関わる支援教育の充実に努める。
- イ 関連機関と連携しながら特別支援教育の専門的知見の活用と研修に努める。
- ウ 特別支援委員会による組織的な支援教育、保護者・地域への支援教育の啓蒙に努める。

(12) 学校評価

◆ 自己評価・関係者評価を行い学校改善に努める。

- ア 学校改善のための評価項目の設定による学校評価に努める。
- イ 参観日や学校だよりでの説明・公開に努める。
- ウ 学校評議員会議での説明と学校評議員からの助言の傾聴するよう努める。

(13) 事務

◆ 学校経営基盤としての事務機能の理解と充実に努める。

- ア 担任・分掌と事務部の連携を密にし、学校予算の効果的な執行に努める
- イ 関係機関との意思疎通を大切にしながら適切な予算執行に努める。
- ウ 給与・福利厚生事務について、情報の周知、指導、啓発に努める。
- エ 会計業務の厳格な執行と定期的な監査の実施と公開に努める。

(14) 教職員の健康管理

◆ 教職員自らの健康管理と周囲からの支援・相談に努める。

- ア 全職員の連携(コミュニケーション・協力・分担)を高め、効果的な教育活動の遂行に努める。
- イ 学校にふさわしい温かい環境づくり(整った教育環境・言葉遣い、目配り・気配り・心配り)に努める。
- ウ 適切な執務・勤務環境の確保を図り、能率的な業務執行に留意する。

(15) 連携・協働

◆ 指導でつながる、家庭・地域との連携及び双方向・相互補完の開かれた学校の推進に努める。

- ア 学校便り・学級便り・保健便り・ホームページを通じ教育活動と児童の様子の発信に努める。
- イ 保護者や地域の人々との情報・意見交換に努め、その願いや思いに応える教育活動の推進に努める。
- ウ エリアファミリーの連携を充実させ、情報の交流・なめらかな接続の実現に努める。
- エ いつもきれいで生き生きとした花壇作り、校舎内外の環境整備に努める。「学校周りを見れば学校の心がわかる」と言われている。
- オ 学校評議員による外部評価や保護者アンケート、自己評価の結果をもとに、的確な改善策を示すよう努める(公表)。
- カ 説明(事前・事後)責任に耐えられる教育活動の推進に努める。

(16) 公教育

◆ 教育公務員としての自覚と使命感・誇りをもつ。

- ア サービスの厳正に努め、全体の奉仕者としての自覚を高めるための研修を実施する。
- イ 教育公務員としての立場を自覚し、職員間で服務規律保持の学校風土の醸成に努める。

2. 成果と課題を分析し、結果の可視化を行い、達成感・充実感を味わう。

3. 児童の変容の様子を見とり(検証・点検し)、達成感・充実感を味わう。